

## 075 悪霊に取(憑)りつかれたゲラサの人を癒す

クルシ★は、イエスが悪霊に憑りつかれた人の悪霊を豚の群れに追いやった所とされている。

マルコによる福音書 5：1～20、  
マタイ 8：28～34、ルカ 8：26～39

マルコによる福音書 5：1～20

01 一行は、湖の向こう岸にある（異邦人が住む）**ゲラサ人の地方**（＝ゲルゲサ、マタイ：ガダラ、ゲルゲザ、the Gerasenes、建造物や生活様式はギリシア式であった）に着いた。

02 イエスが舟から上がられるとすぐに、**汚れた霊**（＝悪霊）**に取りつかれた**（→憑りつかれた）人（マタイ：二人、ルカ：男）が墓場からやって来た。

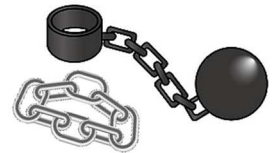
→[N I V]マルコ：a man、マタイ：two demon-possessed men、ルカ：a demon-possessed man

[NKJV]マルコ：a man、マタイ：two demon-possessed men、ルカ：a certain man

03 この人は（丘陵の斜面の柔らかな石灰岩を切り開いて作った、悪霊が住むと言われる）墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。

04 これまでにも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。

05 彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。



06（自分の運命が終わりに近づいていることを感じた悪霊は）イエスを遠くから見ると、走り寄ってひれ伏し、07 大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」

→人間の本性と悪霊との入り混じった「揺らぎ現象」が垣間見られる。

→悪霊はイエスが何者であるかを分かっている。「いと高き」は、天上、あるいは天の高い所だけではなく、神が支配する場所を示す。神の統治の下に生きることは、信仰者にとっては報われた生き方である。イエスは神の支配の時が来るとしばしば言及した（マルコ 1：1、1：24）。「いと高き神」は、聖書に 42 回（旧約：38 回、新約：4 回）登場する。

08 イエスが、「**汚れた霊、この人から出て行け**」と言われたからである。

09 そこで、イエスが、「**名は何というのか**」とお尋ねになると、「名は**レギオン**。大勢だから」と言った。  
→レギオン：語源のラテン語（レギオ）は軍団の意味で、ローマの軍団は 3000 人から 6000 人で構成されていた。

10 そして、自分たちをこの地方から追い出さないようにと、イエスにしきりに願った。

→ルカによる福音書 8：31　そして悪霊どもは、**底なしの淵**へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った（新改訳：悪鬼どもはイエスに、**アビス**へ行くことをお命じにならないようにと願った）。

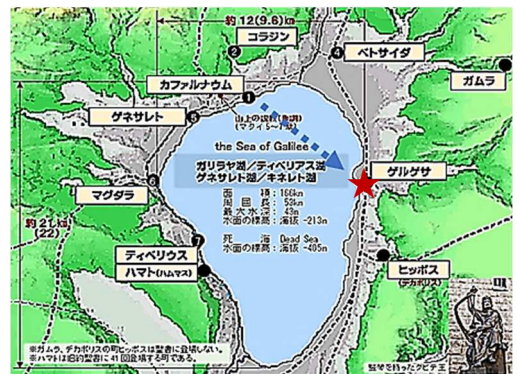
→悪霊は、最後の運命を迎える前に、執行猶予を願い出ている。

11 ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。

12 汚れた霊どもはイエスに、「**豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ**」と願った。

13 イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。

14 豚飼いたちは逃げ出し、（ゲラサの）町や村にこのことを知らせた。



→ユダヤ人は、豚を不浄の動物と見なしていた（レビ記 11：4～8、申命記 14：8）。パレスチナのユダヤ人たちは豚を飼育しなかったため、ゲラサ付近に豚の大群（デカポリスに食用として販売するために飼育されていた）がいたことは、ここはユダヤ人がほとんど住まない異邦人の地であったことを指す。

15 人々は何が起こったのかと見に来た。彼らはイエスのところに来ると、レギオンに取りつかれて（＝憑りつかれて）いた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった（→畏怖の念をいだいた）。

16 成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。

17 そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。

18 イエスが舟に乗られると、悪霊に取りつかれて（＝憑りつかれて）いた人が、一緒に（お供して）行きたい（→弟子になりたい）と願った。

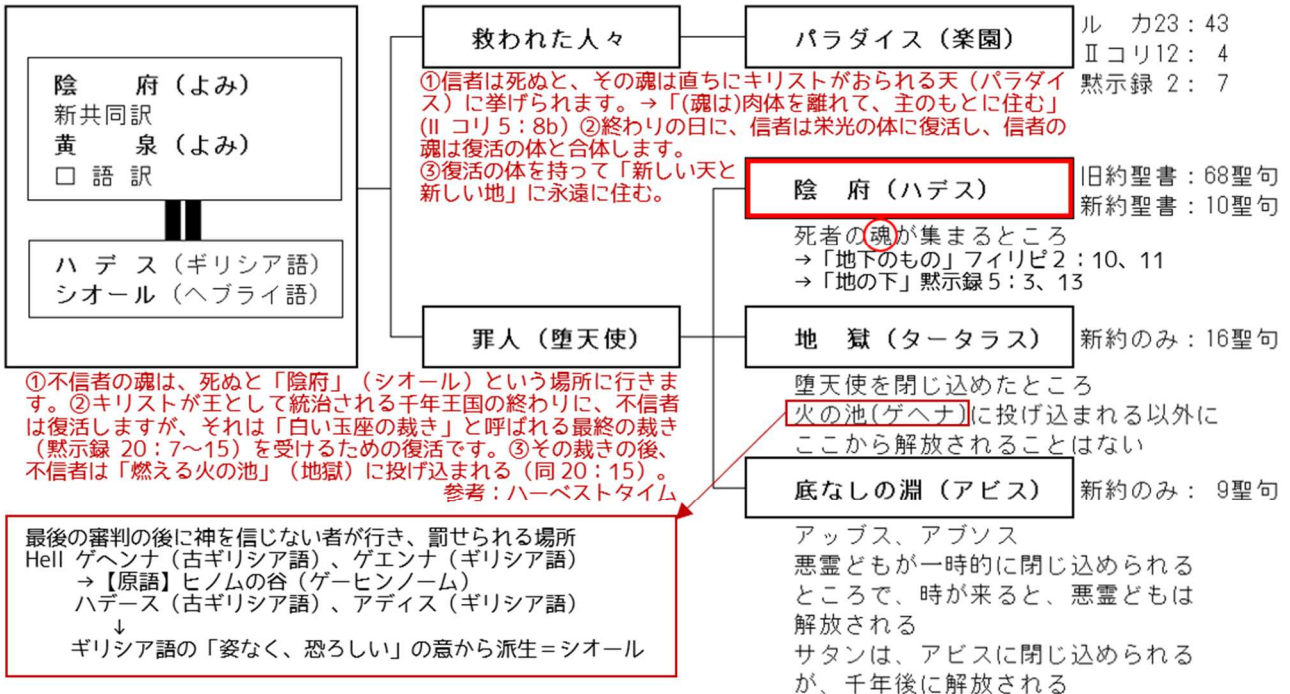
19 イエスはそれを許さないで、こう言われた。

「**自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。**」

20 その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとく **デカポリス** 地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。

→人の命 > 2000 匹の豚

**【参考】 陰府／底なしの淵(アビス)他**



ペトロの手紙二 2：9

主は、信仰のあつい人を試練から救い出す一方、**正しくない者たちを罰し**、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。

【参考】デカポリス(Decapolis)

新約聖書「マタイによる福音書 4 : 25」と「マルコによる福音書 5 : 20、7 : 31」に登場するパレスチナにおけるギリシアの 10 の植民地の町の総称である。

「10」を意味する「deca デカ」と「町」を意味する「polis ポリス」、つまり「10 の町」という意味である。

サマリアとガリラヤの東にある異邦人の 10 の都市連合で、これらの都市の建物はアレキサンダー（アレキサンドロス 3 世）大王に征服された後にギリシア建築に倣って設計され、おのおのの都市は典型的なギリシア都市のようであった（BC4 世紀後半）。これらの都市の住民は異邦人が多く、生活様式もギリシア風であった。

デカポリスの諸都市はそれぞれ議会を持ち、その周辺地域を支配、貨幣鑄造権、裁判権、暦に関する権限を持っていた。またゲラサやフィラデルフィヤの発掘で知られるように、円柱のある幅広い街路、円形広場、神殿、野外劇場などがあった。

また、東方におけるギリシア都市として、ギリシア語を話す移民の者たちを多く引き付け、アラム語文化圏の中におけるヘレニズム文化の中心になっていた。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 <デカポリス>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : デカポリス]
S マタイによる福音書	4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。	
S マルコによる福音書	5:20 その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。	
S マルコによる福音書	7:31 それからまた、イエスはティルスの方角を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。	

デカポリスの町は、①ガダラ、②カナタ、③ゲラサ、④スキトポリス、⑤ダマスコ、⑥ディオソ、⑦ヒッポス、⑧フィラデルフィア、⑨ペラ、⑩ラファナの町々である。

これらは、アレクサンドロス 3 世 (大王) の後継者たちによって建てられた。うち⑤ダマスコだけは北方に離れて位置し、ヘレニズム以前からの古い歴史を持つ。



※図はウィキメディア・コモンズ「[デカポリス](#)」を一部加工しています。